

じょうはな
城端まち歩き vol.2 with 南砺男子

越中の小京都"城端"の古い街並みをそぞろ歩き。

富山県の南西部に位置し、東西約8km、南北約13km長楕円形のまち、城端。池川と山田川に挟まれた舌状段丘に発展したまちは、各所が小路で結ばれ、古い町並みが残る。先人から受け継いだ歴史、文化の深さや自然の雄大さや美しさ、そして人々の優しさに包まれ、身も心も癒される城端の町中を、どうぞゆっくり歩いてください。知れば知るほどひかれていく、城端へようこそ。

1 JR城端駅



明治30(1897)年開業。駅舎は外壁の塗装など一部修理補修が行われているが、概ね開業当時のままの姿を今に残す。海拔は、123.4mで、構内に表示板がある。2015年に開業した北陸新幹線の特急券の購入も可能。なんと!その特急券は今では珍しい、手書きである。

南砺市観光協会城端案内所
南砺市是安206-22 ☎0763-62-1821

2 木型館



隣接する菓子蔵処「田村萬盛堂」が所蔵する木型約1,200点のうち、300点を展示。井波彫刻とは異なる木型独特の「裏彫り」の施された木型職や華麗な菓子文化を垣間見ることができる。

問合せ先: 田村萬盛堂
南砺市城端175 ☎0763-62-0124

3 田村萬盛堂



寛政年間(1789~1801年)創業。現当主(8代目)の石好きが高じて製作した銘菓「木の葉石」は内閣総理大臣賞を受賞。地元でこだわった商品造りにも取り組む。原材料の仕入れは勿論、卵の殻などの廃棄物も、自家菜園の肥料などに活用する徹底ぶり。

南砺市城端175 ☎0763-62-0124

4 大西仏壇本店



城端仏壇。朱塗りが入り入れられている全国でも珍しい仏壇。城端塗という漆工芸があり、蒔絵技法を特色としています。江戸時代より代々引き継がれたこの城端塗の粋を集めたのが城端仏壇の特徴。

南砺市城端504 ☎0763-62-0272



インフォメーション お食事処 産 お土産

5 きよべ呉服店



五箇山の主要産業のひとつだった養蚕業。五箇山や福光で作られた生糸が城端へ持ち込まれ、城端絹に。加賀藩の庇護を受けて城端絹は「加賀絹」として京都や江戸へ運ばれ隆盛を誇った。そんな絹織物などが並ぶ店内は古き良き日本の美で溢れる。袴姿の名物店主から粋な和を伝授されるのも楽しい。

南砺市城端499 ☎0120-620-227

6 はせがわ靴店



越中の小京都・城端の春を彩る、城端神明宮の祭礼「城端曳山祭」。ここで唄われるのが江戸端唄にルーツのある庵唄。店主はその保存会の会長を務める。自らを「遊び人」と称す店主。城端の鄙びた趣が加わった恋の唄は一聴の価値あり。

南砺市城端488-1 ☎0763-62-0311

7 城端曳山会館・蔵回廊



平成14年2月、国の重要無形民俗文化財に指定された、城端曳山祭。会館には、加賀藩の庇護を受けた大工の高度な技が光る傘鉾、京都祇園の一角茶屋を模した庵屋台、伝統の城端塗の粋を尽くした曳山などが常時展示。曳山祭と半世紀を超える付き合いをする館長ならではの解説が面白い。

南砺市城端579-3 ☎0763-62-2165

8 じょうはな庵



明治38年に建築された、城端ならではの町家。昔ながらの町家が城端曳山祭には欠かせない存在。町家の保存、活用に日々尽力する家主が刷る城端百景(版画)は、素朴で味わい深く、城端のまちそのものの趣とともに、家主の人柄と重なる。

コース紹介

- 1 JR城端駅 (徒歩10分)
- 2 木型館 (徒歩1分)
- 3 田村萬盛堂 (徒歩1分)
- 4 大西仏壇本店 (徒歩1分)
- 5 きよべ呉服店 (徒歩2分)
- 6 はせがわ靴店 (徒歩2分)
- 7 城端曳山会館・蔵回廊 (徒歩3分)
- 8 じょうはな庵 (徒歩5分)
- 9 じょうはな座 (徒歩7分)
- 10 善徳寺(山門) (徒歩10分)

9 南砺市城端伝統芸能会館 じょうはな座



平成17年8月に開館。芝居小屋風の造りが特徴の邦楽向け施設。城端曳山祭やむぎや祭りの会場として活用される一方、地元住民らによって定期的に麦屋節や庵唄が披露される。本格的な舞台とこだわりの音響、映像で楽しむシネマ歌舞伎は必見。

南砺市城端1046 ☎0763-62-5050

10 城端別院 善徳寺(山門)



現在では全国的に見てもとても珍しい、1年365日毎日、朝と午後の1日2回のお勤めと説教が、欠かす事無く続けられている。建立から現在までの5百数十年、1度も火災に遭っていない。故に貴重な宝物品が多数収蔵されている。これら収蔵品とともに毎年7月の虫干し法会で開放される山門楼上には釈迦三尊(左:阿難尊者、中心:釈迦如来、右:弥勒菩薩)が安置され、現在も色あせる事無く当時のまま残されている天井の狩野派絵師による天女と迦陵頻伽はとても美しい。山門楼上は、2月の涅槃会でも開放される。現在は耐震化工事(終了は平成29~30年頃)のため、宝物品などの見学は出来ない。

南砺市城端405 ☎0763-62-0026

観光ガイドの紹介

- 予約可能人数/2名様からご利用いただけます。
- 受付可能日/ご利用日の7日前まで、申込書に必要事項を記入の上、南砺市観光協会(電話:0763-62-1201)へお申込みください。受付後、こちらからご返事いたします。
- 料金/ガイド1名同行につき...2時間まで、3,000円、2時間を超える場合は延長料1,000円(時間)(その他入館料など実費必要)
- 集合場所/城端曳山会館等。コースによってご相談させていただきます。
- 連絡先/(一社)南砺市観光協会 TEL (0763) 62-1201 FAX (0763) 62-1202
- 申込み用紙/南砺市観光協会ホームページ「旅々なんと」内、観光ボランティアガイドのページからダウンロード(PDF)下さい。

HP <http://www.tabi-nanto.jp/> 検索

城端曳山祭

毎年5月5日(4日宵祭り)に行われる江戸時代の祭礼形式を継承した渡御行列で、神輿の渡御行列は、全国的にも貴重な存在。獅子舞、剣鉾、傘鉾、御神輿、庵屋台、曳山の順に町内を巡行。加賀藩から特別な厚遇を受けた大工やその流れをくむ郷土の工人たちによって造られた曳山は、金箔や多彩な城端塗りの粋をついた屋形式二層人形山で、6体の御神像がそれぞれの曳山に安置され、夕暮れには提灯を灯して練まわり祭礼大絵巻をくりひろげる。さらには、京都祇園の一角茶屋や江戸吉原の料亭を模した庵屋台の中では、若衆が情緒豊かに典雅な音律をつづる庵唄を奏でる。祭りは300年以上の歴史を誇り、華麗にして荘厳な歴史絵巻は人々を引きつけてやまない。(平成14年2月国重要無形民俗文化財に指定)

城端むぎや祭

毎年9月中旬(敬老の日前の土日)に行われる。800年以上も昔、権勢と栄華を極めたが屋敷・堀ノ浦の合戦で敗れ滅亡し、人里離れた越中五箇山を安住の地とした平氏の落人たちが、なれない山仕事や農作業の合間に、都を偲んで唄い踊ったのが「麦屋節」の始まりといわれている。特にむぎや踊りで注目されるのは、凛々しい男踊り。黒の紋付袴に白すき、腰に刀を差した出で立ちで立ち、シャープな動きで巧みに笠を操り舞う。唄の哀調に対してその姿はなんと男壮。いわば曲線と直線、あるいは静と動が融合した世界を繰り広げる。麦屋節の歌詞に託された思いが、哀調漂う旋律に乗って耳に届くとき、誰もがまるでいにしえの人々の心に触れたような切なさを感じずにはいられない。

南砺男子 南砺男子とは。

南砺の「魅力発信」プロジェクト。南砺で活躍する男性らの「格好(かっけえ)~」を発信する。自然、歴史、文化、産業...様々な魅力のあふれる南砺。それらに携わる「南砺ならでは」な人びと(男性)を、「格好え~」をキーワードに集め、発信している。

まち歩き×南砺男子
まち歩きで出逢う南砺男子に是非お気軽に声を掛けてください。南砺ならではの魅力を、南砺の格好え~男性らが、そっとあなただけに教えてくれますよ。